

銅合金の製造設備拡充

溶解炉と熱処理炉 三芳合金、鑄造能力2倍

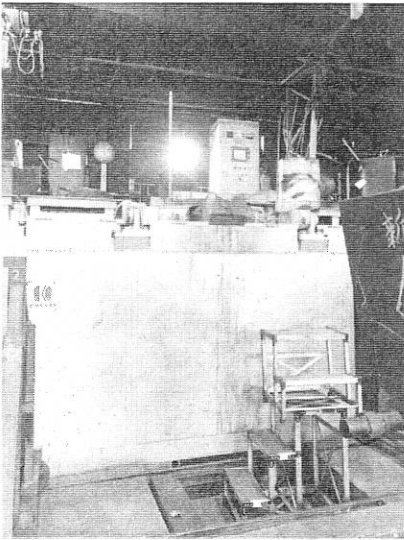
【川越】三芳合金工業（埼玉県三芳町、萩野源次郎社長、049・258・3381）は、銅合金の製造設備を拡充した。主要な溶解炉の老朽更新に合わせ、従来の容量500キログラムを同1トに増強。熱処理炉も1基を老朽更新した上、1基新設し、合計4炉を5炉に増やした。航空機部品や半導体製造装置向けの需要急増に対応する。これにより、鑄造能力は従来比1・5倍から2倍になるとしている。

「半導体向けも相変わらず好調で、納期が厳しくなってきた」（萩野社長）こともあり、設備増強を決めた。

航空機・エネ向け照準

総投資額は1億1200万円に増やすとともに、億円程度。溶解炉の更新に合わせ、銅を高熱で溶かした溶湯量を2倍に増やすとともに、熱源を重油から電気からガスに切り替える。新設炉は製造プロセスの多様化に合わせ、電気炉にした。

老朽更新に合わせ溶湯量1トに増強した溶解炉



三芳合金工業では中期的な目標として、航空機・エネルギー産業向けの事業拡大を掲げている。特に航空機の足回り部品向けの生産量は2017年度に前期比3割増、18年度は同7割増のペースで急成長している。